

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

# 日台稲門会

## 会 報 第 19 号



発行所：日台稲門会事務局  
東京都新宿区新宿 6-25-15(齋藤方)  
編集委員会  
発行人：萩原 伸一  
編集責任者：齋藤 晃

### 第二十期定期総会を

迎えるにあたって

―時代の潮流に乗った活動を―

会長 萩原 伸一



今、世界全体が大きな潮目にさしかかっているように思えます。米国はかつての強国ではなくなり、中国の強硬姿勢や各地で頻発するテロの脅威など不安定な状況の中で、政治的にも経済的にも今後の方向性を読み切るのは困難ですが、とりわけ東アジアは激流の渦中にあることは間違いないのではないのでしょうか。

台湾は、一月の総統選で大方の予想通り民進党の蔡英文氏が圧勝し、立法院も民進党が過半数を確保しました。台湾の民意は、未来について歴史的な選択をしました。今後、大陸との関係にどのような影響が出るのか、いずれにしろ蔡總統の新体制は、喫緊の課題が山積している中で、今後の出たこととは明らかです。一方、日台関係にとつては、友好と交流の更なる深化を図っていく機会としなくてはならないと思います。今後、政治的には難しい局面も想定され、公的交流に影響がでることもあるかも知れません。しかし、それが民間レベルでの交流に影響を及ぼしてはいけないうし、長い歴史の

中で築かれた日台の絆は、民間交流を後戻りさせることはないと思信します。

日台友好・交流のキーワードの一つは「文化」です。故宮博物院の日本展示開催に要した年数は十年以上と言われていますが、中央レベルではその調整に多くの時間がかかります。

私が住んでいる杉並区では、日台中学野球交流や台湾での高円寺阿波踊り公演、杉並での台湾戯曲学院の公演などの相互公演が行われています。昨年は、九月に「丸ごと台湾フェア」というイベントも高円寺で行われました。このような日台のスポーツ・文化交流は全国各地、地域で益々盛んになってきております。昨年、台北駐日経済文化代表処では虎ノ門に文化センターを開設して、映像、文学、芸能など多方面にわたる台湾文化の紹介など各種イベントを行っております。私も何度か訪ねましたが、台湾の文化や魅力を知る広範な活動をされていますので、是非皆さんも足を運ばれたらと思います。

私たち日台稲門会も草の根運動的な組織として、このような文化交流という視点からの活動も取り入れ、日台友好関係の促進に少しでも貢献していきたいと思っています。

### キーワードの二つは「学生・若い人達」

です。台湾の政権交代のシナリオは、ひまわり学生運動から始まったと言った過言ではないでしょう。時代力量も五議席を獲得しました。これからの良好な日台関係を構築していくのは、若い人達のアイデア、行動力が必要です。日台稲門会の会員・会友の年齢構成は年々高くなっており若手が少ないのが現状であり、今後、若手会員の獲得に傾注していきたいと思っています。WTSA(早稲田大学台湾

留学生会)のような留學生組織、様々な大学の学生で構成される日台留學生会、などの学生との交流はここ数年拡大しておりますが、学生も卒業して社会に出ると仕事も忙しくなり離散してしまします。このような方々の組織化などにより、知恵と経験が豊富な会員と次世代を担う会員の総合力で時代の潮流に乗った会運営を目指していきたいと思っています。

現在、日台稲門会には八十数名の会員・会友の皆さんで構成されています。早稲田大学卒業の会員を中心としておりますが、目指すところは日台友好関係の促進にあります。

今後、同様な志を掲げる様々な組織・団体とも連携を図ることにより活動範囲を更に広められたらと考えております。又、早大卒業生以外の会友の皆さんにも会の中核として活動に参画してもらいたいと思います。不透明な変化の激しい時代だからこそ、多くの人たちの和の力で、来年結成二十周年を迎える日台稲門会を盛り上げ、日台友好に少しでも貢献できる一年にしていきたいでしょう。

最後に、二月台湾南部地震において多くの方々がお亡くなりになったり、家を失うなど甚大な被害がありました。心よりお見舞い申し上げます。日本も過日、熊本で大きな地震が起きました。東日本大震災から五年を経過しましたが、まだまだ完全復興には時間がかかります。台湾からは震災後多大の支援を頂きましたが、突然襲ったこのような自然災害に対して、地震多発地域に住む日本、台湾は、困難に直面したときに相互に支援し合える関係を「久遠」のものとしていきたいものです。

## 第十九期(二〇一五年)定期総会・ 記念講演・交流の集い開催報告

日台稲門会第十九期定期総会・記念講演会、及び第十六回日台交流の集いが、二〇一五年六月二〇日(土曜日)午後三時から、早稲田キャンパス二十二号館で開催されました。

なお開会に先立ち、今年お亡くなりになった物故者を偲び、黙祷を捧げました。

故 興石 那豊 氏 (当会顧問、元幹事)

五月九日、逝去

故 萩合 博 氏 (元・台北稲門会会長)

六月五日、逝去

定期総会には会員十九名、会友七名が出席し、高橋幹事長の司会のもと会則に基づき岩永会長が議長に選任され、開会宣言ののち総会議事の審議が始まりました。先ず議長の指名により高橋幹事長が二〇一四年度事業報告を、三村副幹事長が同決算報告を行ない、会計監査報告を眞鍋監査役が欠席のため同監査役の委任を受けて高橋幹事長が代読し、「会計監査のため証憑書類の閲覧、計算書類の監査手続きを行なった結果、会計帳簿と合致し、収支の状況を適正に示している」旨の報告がなされました。続いて二〇一五年度事業計画案、予算案の説明があり、いずれも原案通り承認・可決されました。会長交代人事では、議長から改めて自らの会長在職が三期六年にわたることから本総会をもって辞任したいとの希望があり、高橋幹事長が幹事会を代表して会

員・萩原伸一氏を新会長候補者に推薦すること、並びに推薦理由、及び同氏の略歴の説明がありました。また議長は、監査役については現任の眞鍋藤正氏を引き続き選任することを提案し、いずれも原案通り承認・可決されました。また総会終了後、現会長は名誉会長に、現幹事長は顧問にそれぞれ幹事会の推薦を経て就任すること、併せて現幹事の中島淳氏、現顧問の井村晃也氏、渡邊光治氏、石川公弘氏、小野間恒夫氏、興石那豊氏(逝去)がそれぞれ退任することが報告されました。

なお、新役員は次の通りであります。

名誉会長：岩永 康久、会長：萩原伸一、幹事長：三村 達(会長補佐/会の運営)、事務局長：齋藤 晃(兼会報担当)、幹事：小川 英郎(新任)、川村 由紀(会計担当兼名簿・事務局)、神田 正治、北川 原宣夫、江 正殷、鈴木 進一(新任)、寺田 修(ホームページ担当)、山崎 総、渡邊義典、監査役：眞鍋藤正、顧問：高橋 徹

最後の議案として、高橋幹事長は事務局長職の新設、並びに顧問の任期に関する会則条項の変更を説明し、原案通り承認・可決され、総ての議案が審議されたので閉会が宣言されました。また総会終了後、来賓の戸枝久郎・国際部事務部長より、母校の現状につき報告がありました。

記念講演会には会員・会友二十九名、学生十九名、一般四十一名他九十一名が出席し、萩原新会長の進行のもと、明石元二郎・元台湾総督(令孫で、今上陛下

の級友でもある明石元紹氏による「明石家三代と台湾」と題する記念講演が行なわれました。講演では、先ず明石元総督の、①日露戦争時のスパイ・後方撓乱(陸軍大佐時代)―ロシア革命の誘発、共產主義国家の誕生へ、ソ連・中共・北朝鮮、②朝鮮半島の併合(陸軍少将時代)―憲兵司令官、影の総督、無血の併合、玄洋社、③台湾総督(陸軍大将時代)―日月潭水力発電ダム、烏山頭ダム、遺言により台湾に埋葬、と時代、この活動が紹介され、続いて「尊父元長氏と国民党とのエピソード、最後にご自身と今上陛下とのご幼少時からの交友関係について語られました。講演後の質疑応答では、出席者による真剣な質疑応答がなされ、また講師の著書「今生天皇 つくらざる尊厳」級友が語る明仁親王」の紹介がありました。この講演会には戸枝・国際部事務部長が総会に引き続き出席されたほか、池田維・交流協会顧問(元台湾事務所代表、台湾からの賓客として陳光敏・早稲田大学台湾校友会会長、鄭文哲・同副会長、ご子息の鄭世維氏が駆けつけられ、熱心に聴講されておりました。

六時からは二十二号館三階ラウンジに会場を設営し、日台交流の集いが行なわれました。萩原新会長の開会挨拶に続き、岩永名誉会長が改めて在任中の謝辞を述べられ、来賓として徐瑞湖・駐日台北経済文化代表處副代表、台湾校友会陳会長に挨拶を賜り、交流協会池田顧問による「挨拶と乾杯のご発声のあと歓談に入りました。なお今回は銘酒を用意し、「黒龍大吟醸」

「久保田萬寿」、そして会友・飯沼昭治氏(三台会)差し入れの飯塚酒造「姿」(純米吟醸無濾過生原酒)を味わったことを付記します。歓談ののち、交流の集いに参加された団体・個人、新入会員が紹介されました。講師はじめ来賓の方々も最後まで台湾からの留学生や日本の学生たちと親しく懇談され、盛会の裡に終了しました。(事務局長・齋藤晃・記)



講演される明石元紹氏と、明石氏の著書



## 台湾校友会

## 二〇一五年度総会の参加報告

二〇一五年十一月二十一日(土曜日)に台北にて行われた本年度台湾校友会、その前日に行われた台北稲門会主催の前夜祭などについて報告致します。

毎年恒例の台北での前夜祭は、客家料理の「干菜」で行われました。この店は、台北稲門会が日常でも各種行事の際に利用しているとのこと、かなり融通の利く店だそうです。イカや細切り肉の炒め物など庶民的なソウルフードで、お酒が進みます。台北稲門会からは、長田光生さんや山田敦さんなどのお馴染みの方々に加えて、一時帰国していた早稲田大学の留学生や、台湾大学に留学している早稲田大学生等の若い方が多数参加して、場を盛り上げました。

本年度の大会は、國賓大飯店の樓外樓にて開催されました。最初に挨拶に立たれた陳光敏会長から遠路はるばる日本よりお越し下さった母校の鎌田総長並びに各稲門会来賓の皆様に対する謝意が述べられました。又会則により陳会長他全理事が本年度中に退任することから、新しい理事が紹介されました。続いて鎌田総長から挨拶があり、台湾校友会が日ごろから多彩な校友会活動を展開され、早稲田大学の発展に貢献されていることに對して感謝の念が表されました。その後、恒例の日本各地から参加の各稲門会との

お土産交換及びスピーチがあり、日台稲門会から萩原会長が先頭で挨拶しました。その後も日本各地から参加の稲門会(行政書士、司法書士、遠州等)の代表のスピーチ及びお土産交換等があり、懇親会に移りました。懇親会には、昨日の前夜祭に参加した留学生達も参加し、盛会の内に終了しました。

尚、余談ですが、校友会の当日の日中は時間がありましたので、秋季講演会にて「台湾ドラマにおける日台コラボレーション」という演題で講演された台湾ドラマ製作会社の日本人スタッフであり、日台稲門会台北支局長(?)の木藤奈保子さんと合流し、永康街を案内してもらいました。(幹事 北川原宣夫記)



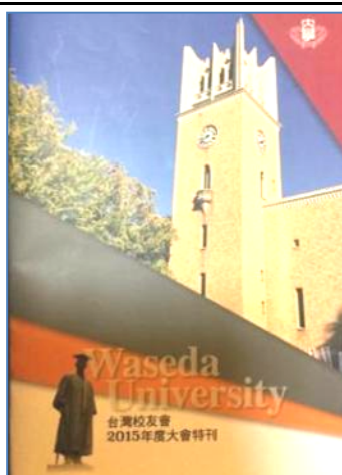
永康街で



前夜祭にて



校友会で挨拶をする萩原会長





## 「台湾ドラマにおける 日台コラボレーション」

春秋講演会及び交流の集いが、十一月十四日(土曜日)午後四時から、早稲田キャンパス二二号館で開催されました。先ず講演会では台湾・可米製作股份有限公司 Comic Production の木藤奈保子氏を講師にお招きし、「台湾ドラマにおける日台コラボレーション」と題する講演が行なわれました。木藤講師は現在、台湾・可米製作では唯一の社長専属日本人スタッフとして、台湾ドラマにおける日本とのコラボを担当されております。

台湾では日本の漫画に人気があり、それらの作品を原作としたドラマが数多く制作されています。例えば、「花より男子(だんご)」(神尾葉子・作・画)は日本に先駆け台湾でTVドラマ化され、「流星花園(りゅうせいはいはなづの)」(Fleeteor Garden)、「アジア各国で大ブームを巻き起こしました。(日本ではその後「花燃ゆ」の井上真央、松本潤(嵐)主演でTVドラマ化)。

木藤講師が最近手がけられた作品に、台湾ドラマ「流氓蛋糕店」(CHOCOLAT) (窪之内英策・作・画「シヨコフ」という作品があります。足を洗った元ヤクザが亡妻を偲んでケーキ屋を開くのですが、そこに長澤まさみ扮する亡妻の(元夫との)娘が飛び込んできて一緒に生活をする、というコメディ物、これもアジア各国で放映されているそうです。木藤講師

が感心されたのは、長澤まさみの俳優としてのプロ根性と努力。日本で育った台湾人と日本人とのハーフという設定にし、多少中国語が完璧でなくともOKだったのですが、毎日深夜までかかって台詞を耳から丸暗記し、九十分を十五話分全編中国語で演じ切ったそうです。なおかつ共演者の台詞まで理解して会話話としてもスムーズに進み、スタッフも称賛しきりだったとのこと。彼女はその後、ジョン・ウー監督「THE CROSSING 太平輪」(日本未公開)、是枝裕和監督「海街日記」(二〇一五年キネマ旬報第四位)と立て続けに出演、現在はNHK大河ドラマ「真田丸」にヒロインきり役で登場しています。

※「流氓蛋糕店」(CHOCOLAT)はレンタルDVDもあるそうです。

さて、木藤講師はこのほか、台湾での日本とのコラボの課題についても説明されました。ただ闇雲にコラボすればいいということではなく、お互いを理解しつつ進めるべきだと。思わず、台湾大好きだけでは台湾との関係も深化しないのでは、と自省した次第です。

講演会には来賓三名、会員・会友十七名、一般十名、学生二十七名(台湾留学生・日本人学生)の五十七名が出席し、盛会の裡に終えることができました。テーマが台湾ポップカルチャーということとで当初は分かるのかいなど心配しましたが、学生の反応には手応えを感じました。今後も台湾―日本の文化交流をテーマにした講演を企画したいと考えております。講演後は三階ラウンジに会場を移動し

ての交流の集い。萩原会長の開会の辞に続き、来賓の柿澤未知・交流協会総務部長による「挨拶と乾杯のご発声」に続き、木藤講師にも改めて「挨拶を頂き歓談に入りました。木藤講師を囲んでの学生の輪が引きも切らず、食事も満足に摂れなかった」様子。歓談ののち、台北駐日経済文化代表処教育部・黄聖明様、早稲田大学国際部事務部長・戸枝久郎様はじめ、学生団体(WTSA、日台学生会議)、他の出席者の皆様が紹介されました。交流の集いには来賓三名、会員・会友十六名、一般十一名、学生二十五名の五十五名が参加し、最後まで親しく懇談され、別れを惜しみつつ散会しました。(齋藤晃採)

### ―講師 Profile―

木藤奈保子(きとうなほこ) 一九九三年三月 早稲田大学第一文学部史学科日本史専修卒業、九九年四月 NTT 東日本(株)入社、二〇〇二年三月 同社退社、〇二年四月 日中学院本科入学、〇五年三月 同学院本科研究科卒業、〇五年四月 コミックリズ(株)入社(台湾ドラマ配給会社で台湾ドラマの買い付け及び日本原作の台湾での映像化における台湾製作チームとの調整を担当)、一一年八月 コミックリズ(株)退社

現在所属：可米製作股份有限公司 Comic Production Co., Ltd. Special Assistant to CEO

台湾ドラマ制作における日本との協業担当。台湾、日本双方にとって良い結果を生み出すコラボレーションを探し、折衝、実行しています。



講師を囲んで



ジェネレーションギャップを感じつつも・・・

## 台湾便り 台湾と日本の「曖昧さ」について

木藤奈保子

台湾のドラマ制作プロダクションに勤めて四年半が過ぎました。台湾人の社長や同僚に囲まれ楽しく仕事をしています。そんな毎日ですが、日本と台湾の違いに戸惑い失敗する事も多いです。

ずっと難しいと感じているのは台湾の「曖昧さ」です。

日本で育った私は幼い頃から「日本は曖昧社会、海外はダイレクト」と思い込んでいました。しかし、台湾社会で仕事をしてから仕事の社会においては、台湾は日本よりも曖昧なのでは？と思うようになりました。(勿論これは私の働いている業界には決まり事がないという事が原因かもしれませんが、他の業界では異なるかもしれません。)

台湾では仕事の場合では、はっきり回答しない事が多いです。(マイナスな事には特に)。こんな事を社内で見ました。「Aについて(それ程重大な事ではない事)いかがですか？」と問い合わせられて数日経った後に来た回答が「Aについて次の検討をする事はOKですが、まだAをOKとは決定していません。傍で見ていた私は一体いつになったら決まるのだから？！と考えてしまいました。」

台湾人がはっきりと結論を出さないのは左記のような原因だと考えています。まず、台湾では状況の変化が多いため、最後の瞬間までより多くの選択肢を残し

ておきたいためだと思います。「到了再說(その時になったら考えよう)」と台湾では良く聞きますが、大小に関わらず直ぐに結論を出さない事が多いです。一つ一つ着実に準備を進めながら物事を進める日本のスタイルとは異なり、最後の最後にベストな選択を一気にします。

実際のプロジェクトでもこのような形で最後にベストな選択をして成功してきた例が多々あります。

次に、台湾社会はプライベートとビジネスの垣根が無いので、プライベートも付き合う可能性のある相手の感情を傷つけないように考えているうちに、保留してしまふ事もあると思います。私が書いたお断りのメールを見て、同僚からダイレクト過ぎる！もつとオブラートに包んで！(中国語では「要包裝！／言葉を包装して！」と言われました。)と言われた事もあります。台湾人のビジネスメールは「包装」が大切です。

また相手が組織のトップでない場合ですが、台湾は絶対的なトップダウンの組織が多くトップに結論を仰いでいるうちに、保留という事になっている事も考えられます。

上記のような理由が絡み合い、はっきりと結論を出さず(伝えずに)物事が進む事が多いです。この点では日本の仕事社会の方がダイレクトだなどと思います。

逆にプライベートではやはり台湾人はダイレクトです。台湾に来た当初「ご飯今度行こうね！」と言われて日本の感覚で「今度ね！」と返しそのままにしてい

ました。ある日同僚から「ナホとご飯に行こうと何回も言っているけど一回も誘われた事が無い」と言われ驚きました。台湾人にとっては「ご飯行こう！」は勿論社交辞令でも挨拶代りでもなく、本当に行きたいと思っている事なので私は少し約束を守らない人だと思われていました。

(更にご飯は台湾人にとって、かなり大切な事なので他の約束よりも重要度が高いそうです！)私の返事は台湾人には、どっちなのか分からないと思われていたのだらうなと思います。今はいけない時は「暫くは行けない。」とはっきり言うようにしています。



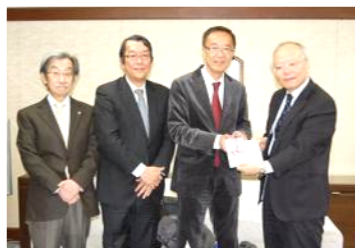
市場で見つけたパイナップルと猫

日本と台湾、どちらも曖昧さが存在する社会だと思えますが、其々に曖昧さを求める部分、はっきりとした部分が異なりとても面白いと思います。未だに毎日失敗ばかりしていますが、

異なる文化の中で外国人である特色も生かしつつ良い作用を生み出せる最善策を模索していきたいなど思っている今日この頃です。

### 事務局より 台南地震に対する 義援金をお届けしました

二月六日(土)に発生した台南地震に対し、日台稲門会として義援金十万円を寄付することを二月二十日幹事会で決定し、先方のご都合を伺った上で三月九日(水)、萩原会長、三村幹事長、齋藤事務局長の三名で代表處に持参しました。代



郭副代表と

表處では郭副代表、並びに王教育部秘書に対応頂きました。なお先日、臺南市政府からお礼状が届きましたので、その内容を紹介します。

「日台稲門会様

貴方の愛は

被災者の心を慰めるだけではなく、台南が立ち上がる自信も鼓舞してくれます！

全市民は心から貴方に感謝致します。頼清徳(臺南市長)及び市民一同敬具」



# 平成二八年春季講演会開催報告 「経済的視座よりの兩岸関係」

日台関係の展望

高 寛

春季基調講演会及び交流の集いが、三月十二日(土)午後四時から、早稲田キヤンパス二十二号館で開催されました。

まず講演会では一般財団法人台湾協会理事の高寛氏を講師にお招きし、「経済的視座よりの兩岸関係、日台関係の展望」と題する講演が行なわれました。高講師は、台湾三井物産董事長、香港三井物産・ベトナム三井物産取締役を歴任された後、現在は日台関係促進のため種々経済団体経済研究所、大学等で講演などのボランティア活動をされています。

今回の講演会はこれまでとは趣向を変え、まず講師にテーマについてお話をし、頂き、その後聴衆と講師、あるいは聴衆同士でそのテーマについて意見交換を行う、という形をとり、また講演会名は基調講演会としました。

## 以下講演内容抜粋:

一月十六日投票の台湾総統及び立法委員選挙は、国民党の壊滅的大敗、民進党の大勝に終わった。第三勢力・時代力量の台頭、また中国、米国や資本家の介入がなかったことが二〇一二年と異なる。だが安泰ではない。台湾企業は IT など中国へ過度に依存しており、この従来型ビジネスモデルは限界にきている。蔡英文新政権としては「経済原動力再生」の三

本の矢(イノベーションによるグローバル競争力の強化、内需産業の強化、地元経済の発展を重視)、及び「産業発展に対する」三つの重点(未来産業、持続的なグリーン産業、生活産業)、並びに「五つのイノベーション研究開発計画(クリーンエネルギー科学産業、アジアシリコンバレー産業、スマート機翼革新産業、国防産業の振興、バイオ医薬 R&D 産業)」を経済政策として掲げたが、結果が今後の最重要要素となるだろう。また国際経済貿易戦略として TPP、FTA への参画を目指し、東南アジア諸国との協力関係を推進する(新南向政策)としている。

一方中国は誰も定義出来ない「社会主義的市場経済」下にあるが、経済成長の通減に伴いさまざまな課題が露呈しており、習近平は経済の質の向上のため一帯一路、AIIIB など成長モデルの新たな段階への転換政策を図っている(新常态)。台湾・中国の兩岸関係であるが、中国にとり、「九二年合意」の確 が大前提としても台湾の重要性は新政権になっても変わらない。台湾にとっても兩岸経済貿易拡大は必要であり、台中 FTA の E C F A の交渉を推進し、中国の変革に伴った新たな B I Z M O D E L を模索せざるを得ない。

さて、冷戦終結後の世界の潮流はグローバル化である。IT 革命により国際分業体制がさらに明確化・深化している。世界の経済的結びつきは、政治の安全保障と共に今後重大要素となる。

○グローバル化によってもたらされる国

## 国際分業の深化

Group 1 群国 R & D、先端技術

S O F T に特化 日欧米

Group 2 群国 良い商品を安価に製造する生産(改良) 技術に長ける

(中) 台韓

Group 3 群国 労働集約的生産地域 中、東南・西南アジア、アフリカ 日本としては中国の変革を見据え、日台一中に米国を加えた制度的プラットフォームを構築し、台湾との戦略的国際分業を深化するべきである。また、台湾企業鴻海精密工業によるシャープの買収目的は、ブランド力の取得にある。

引き続き、意見交換に入りましたが、講演内容とはやや離れ、台湾の教育問題について興味深い討論がありました。台湾では一九九七年に中学校教科書「認識台湾(地理篇、歴史篇、社会篇)」が刊行・採用され、それまで歴史といえは「中国本土」を指していたのですが、「郷土史」として初めて台湾についても学ぶことができるようになりました。これにより台湾アイデンティティが覚醒し今回の選挙結果の遠因になった、という意見もありました。その後「認識台湾」は廃止され、歴史教育は社会科の中に組み込まれたので、今の留学生は別の教科書で学んでいます。なお講演会には会員十七名、会友五名、一般八名、学生四名、計三十四名(講師を除く)が参加しました。

講演後は老舗・金城庵に会場を移動しての懇親会。会員十六名、会友四名、一般六名、学生四名、計三〇名(講師を除く)が参加し、時を忘れて懇談され、盛会の裡に終了しました。(齋藤晃 採録)

―講師 Profile―  
高 寛(たか ゆたか) 昭和二六年年生 昭和四九年横浜国立大学経営学部卒業 昭和四九年三井物産入社、主に金属資源、非鉄製品分野を担当 米国サンフランシスコ、ニューヨーク本店副社長を経て平成十七年鉄鋼原料・非鉄金属副本部長 平成十八年理事、台湾三井物産董事長 三井物産中国経営評議会、香港三井物産取締役、ベトナム三井物産取締役を兼務 平成二二年退職 平成二一―二三年 M I O D シニア・アドバイザー

現在…一般財団法人台湾協会理事、社団法人アジア太平洋フォーラム理事、新日華フォーラム理事、新外交フォーラム評議員、台日産業技術合作促進会(TJ C I T)顧問、ふるさとテレビ顧問、独立行政法人中小企業基盤整備機構国際化支援アドバイザー



講演前に三村幹事長、高講師、萩原会長

## 日台稲門会 学生との交流会開催報告

台湾留学生との交流会を、十二月十六日(水曜日)午後六時から、早稲田大学正門前大通りのレストラン『イル・デ・パン』(イタリアン&ハワイアン料理)で開催し、WTSA(早稲田大学台湾同学会)の留学生十名、日本台湾学生会議の学生六名、岩永ゼミ二名、幹事・会員・会友十名の総勢二十八名が集いました。

この交流会は従来幹事のみで主催していましたが、今回から初めての試みとして一般会員・会友にも広く呼びかけ、三名の方が参加されました。

今回は特にテーマを決めず自己紹介、歓談などに終始しましたが、一部学生からは日台稲門会と学生とのつながりについて疑問を呈する意見もあり、今後の運営については学生の要望も取り入れ検討する必要があると思われます。また、学生による高齢者の慰問行事に似た雰囲気もあり、若手会(青年部(仮称))設置の必要性があると感じられました。

今後の開催時期については、新入生が入学して落ち着いた四月の開催も視野に入れ検討いたします。(齋藤晃記)



## 台北駐日経済文化代表処 台湾文化センターの紹介

東京・台湾文化センターは港区虎ノ門にあり、日々日台文化交流のプラットフォームとして台湾の芸術・文化を発信しています。台湾好きの方はそれぞれ興味のあるイベントを選択して参加されるといいと思います。ただし登録制なので、早目に申し込まないと、直ぐ満席になってしましますのでご注意ください。ここでは数少ない小職の参加記録を開陳します。

### 十二月十八日

『天空からの招待状(看見台灣)』(映画)  
企画・監督・撮影・編集 齊柏林、製作 総指揮・侯孝賢、音楽・何国杰、ナレーション・呉念真(中国語) 二〇一三年/九三分 二〇一三年台湾金馬賞最優秀ドキュメンタリー賞受賞

全編空撮の記録映画です。台湾の美しい自然を、空から丹念に描きます。どうやって撮ったのか分かりませんが、壮大かつ非常に精緻な映像です。台湾の自然から始まり、田畑や茶畑などの人間の登場する場面に替ってゆきます。さらに、工場排水や排煙などで変質してゆく現在の台湾の姿、人の営みの悪い側面が原因のさまざまな環境問題をありのままに映し出します。

「われわれの台湾は本当に美しい国です、でも問題もあります」というテーマを、さりげなく訴えている。知識・経験の共有化という意味での社会的暗黙知が

あるからこそできる作品です。

翻って日本ではどうか。社会問題や政治的イデオロギーを謳うドキュメンタリーが評価される傾向にあり、そもそも「美しい日本」は即アウトです。

### 五月十六日

『故宮から台湾を知ろう』(講演会)

講師・野嶋剛(のしま・つよし)氏 大変に内容の濃い講演でした。まとめは難しいので、断片を記述します。

1. 故宮は五つある

- ①北京・紫禁城の故宮博物院：戦火を避けて移動した残り、とはいってももの約七割を保管
- ②南京博物院：移動中の一時預かり、北京から返還を求められている
- ③瀋陽故宮：後金(清の前身)の宮殿で元々そこにあったもの
- ④台北・国立故宮博物院：国民党がそもそもは一時保管用に作った。存じ故宮
- ⑤嘉義・故宮南院：民進党時代にアジアの博物館として作られた「分院」

2. 日本での特別展

「翠玉白菜」など人気のあるものが多かったが中華文化を代表する一級品は少なかった。その中で「散氏盤」(境界の制定)「新臺量」(度量衡)はともに国家の制定に関わる重要な証拠品。

3. 故宮文物の重要性

中華民国、中華人民共和国ともに国家としての成立は新しく、「中華〇千年」の正統性を謳うにはその証である故宮を独占することが必須。さて台湾は？詳しくは野嶋剛・著『故宮物語』(勉誠出版)をご覧ください。(齋藤晃記)

祝 早稲田大学校友会日台稲門会  
会報第19号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處  
代表 謝 長 廷

東京都港区白金台5-20-2

電話 03(3280)7811



# 第十二回早慶ゴルフ対抗戦結果報告 早稲田、四連覇ならず (対戦成績 早稲田五勝七敗)

昼間の温度が上がらず寒いコンディションの中、両校の真剣勝負が繰り広げられました。団体戦では、早稲田は健闘虚しく、敗戦を喫しました。(神田記)

開催日：二〇一五年十一月十二日(木)  
会場：習志野カントリークラブ

クイーンコース(千葉県)

参加人数：早稲田五名 慶應七名

〈団体戦〉上位五名の総グロススコア

慶應 五〇三打 優勝

早稲田 五三三打 準優勝

〈個人戦〉新ペリア方式にて順位決定

優勝 飯沼昭治(慶應)

準優勝 瀧瀬郁雄(慶應)

〈ベスコロ〉岩永康久(早稲田) 八九

〈ニアピン〉関秀彦(慶應)、宗澤進(慶

應)、和田滋(慶應)

| 早稲田 |     | 慶應義塾  |     |
|-----|-----|-------|-----|
| 選手名 | グロス | 選手名   | グロス |
| 岩永  | 89  | 瀧瀬    | 93  |
| 岡嶋  | 104 | 井下田   | 99  |
| 高橋  | 106 | 関     | 101 |
| 市川  | 116 | 宗澤    | 104 |
| 神田  | 118 | 飯沼・和田 | 106 |
| 合計  | 533 | 合計    | 503 |
| 30  |     | -30   |     |



## 第十三回早慶ゴルフ対抗戦結果報告 早稲田を下し、二連覇を飾る

(対戦成績 慶應八勝五敗)  
※三台会和田会長からの報告です

五月十九日木曜日開催の首記ゴルフ対抗戦は、好天に恵まれ、大変楽しいかつ緊張感のあるゴルフ会でした。対戦結果は、三台会慶應が勝利いたしました。

稲門会早稲田岩永さんが八十二の好スコアで、優勝が危ぶまれましたが、中

堅からベテランまで厚い層の団結力で三台会・慶應は、優勝出来ました。

会場：新武蔵丘ゴルフ(埼玉県)

参加人数：慶應十名 早稲田七名

〈団体戦〉上位五名の総グロススコア

慶應 四七二打 優勝

早稲田 四七七打 準優勝

〈個人戦成績〉ダブルペリアによるHD

CP戦

優勝 小山信雄(慶應)

第二位 濱田義文(早稲田)

第三位 岩永康久(早稲田)

〈ベスコロ〉岩永康久(早稲田) 八二

〈ラッキー賞〉七位 和田滋(慶應)

〈B賞〉渡邊義典(早稲田)

〈ニアピン賞〉#2濱田義文(早稲田)、

#5岩永康久(早稲田)、#10(該

当なし)、#16宗澤進(慶應)

なお、次回日程は、十一月十一日金曜

日予定です。幹事は稲門会早稲田です。

是非ご参加願います。(三台会・和田記)

| 慶應義塾 |     | 早稲田 |     |
|------|-----|-----|-----|
| 選手名  | グロス | 選手名 | グロス |
| 建部   | 89  | 岩永  | 82  |
| 関    | 93  | 神田  | 94  |
| 金光   | 96  | 濱田  | 96  |
| 井下田  | 97  | 高橋  | 100 |
| 村山   | 97  | 鎌田  | 105 |
| 合計   | 472 | 合計  | 477 |
| -5   |     | 5   |     |



## 三台会との交流報告 日吉台地下壕見学会

(連合艦隊司令部地下壕)

三台会・和田会長から標題見学会へのご案内を頂き、当会有志と勇躍参加しました。なおこの見学会は、「日吉台地下壕保存の会」が主催されています。

九月二十六日(土)午後、東急東横線日吉駅「銀玉」前に集合、定時に案内役



であるボランティアの方々の点呼を受け  
た後(登録制なのです)資料を頂き、慶  
應義塾大学日吉キャンパス「来住舎」シ  
ンポジウムスペースに移動しました。

先ずガイダンスです。日吉台地下壕と  
は何か? 大東亜戦争の戦況悪化に伴い、  
海軍省は一九四四年三月、慶應義塾大学  
日吉キャンパス第一校舎(現・塾校)の  
一部を含む敷地・建物と寄宿舎を借り受  
ける契約を締結しました。これにより、  
第一校舎には海軍軍令部第三部が入り、  
次いで同年九月には寄宿舎が連合艦隊司  
令部となります。また、日吉キャンパス  
地下に、作戦室や司令官官室などを含む  
連合艦隊司令部地下壕が作られ、さらに  
海軍省人事局・航空本部地下壕が増築さ  
れました。この頃海軍は、ミッドウェイ  
海戦やマリアナ沖海戦で航空母艦や艦船  
を失う大損害を受け、連合艦隊司令部を  
擁する旗艦大淀まで艦船として使用せざ  
るを得なくなったことから、連合艦隊司  
令部を洋上から陸上(地下)に移さざる  
を得なくなったのです。これが連合艦隊  
司令部地下壕です。

それではいよいよ地下壕見学。

第一校舎(ここでは西暦と皇紀を表す  
レリーフの説明があった)から塾校グラ  
ウンドの前を通ってまむし谷への階段を  
下り木々の間を抜けると、体育館を過ぎ  
た辺りに地下壕への入口がありました。  
各自用意した懐中電灯をチェックし中へ。  
通路のところどころに敷いてある鉄板  
を踏むと大音響がして、一寸驚きます。  
天井は高く幅もあり意外に広い印象。壁  
面は四十センチ程のコンクリートで固められ

ているそうで、堅牢な造りです。内部は  
摂氏十七度に保たれ保温性に富み、空気  
の流れまで計算して掘削されているとの  
こと。司令官官室、作戦室(幅四畳、高  
さ三畳、奥行二十畳の大空間)、それに電  
信室、暗号室と続いています。壕の総延  
長は二千六百畳以上。多くの軍人、文官  
がここで活動していました。短期間でよ  
くこれだけの地下壕を作り上げたものだ  
と、戦時の異常な集中力を感じます。

最初の指揮は十月のレイテ沖海戦、総  
力をかけた決戦でしたが惨敗。沖縄戦の  
指揮もここで執ったとのこと。また  
電信室は専ら受信に限られ、戦艦大和の  
沈没から神風特攻隊の最後までを克明に  
受信し続けたそうです。

当時の慶應義塾塾長は、戦後のサンフ  
ランシスコ講和条約単独講和と支持論者の  
小泉信三ですが、この「ペンから銃」を  
どう受け入れたのでしょうか。

見学後の駅西側「たつ吉」での懇親会  
は定式通り。

参加者は、三台会八名、当会四名(小  
川幹事、高橋顧問、渡邊幹事、それに齋  
藤)でした。

最後に、日吉台地下壕保存の会の小山  
信雄様(三台会)、佐藤宗達様(稲門校友)  
には丁寧な説明・案内を賜り、また懇親  
会で最後までお付き合ひ頂き、は心より  
感謝いたします。(齋藤晃・記)

#### 三台会との交流報告

#### 池井優 名誉教授による講演会

三台会・和田会長から標題講演会のご  
案内を頂き、有志と参加しました。

四月十五日(金)夕刻、三田キャンパ  
スの「萬來舎」にて開催。講師は三台会  
顧問の池井優・慶應義塾大学名誉教授、  
演題は「オリンピックをめぐる中日関係」。  
オリンピックは国家にとって国威発揚  
宣伝の場であり、経済、正統性のアピー  
ルなど重要な側面があることを先ず確認  
次に、分裂国家の参加にはどう対応して  
来たか、という事例の説明がありました。  
そして、中華民国と中華人民共和国の立  
場の変遷です。

中華民国は一九二二年に中国大陸で成  
立し、一九二二年に中国オリンピック委  
員会としてIOCに加入、一九三二年の  
ロサンゼルス大会から参加し、一九四八  
年のロンドン大会まで続きます。

問題は国共内戦を経て、一九四九年に  
中華人民共和国が成立してからです。中  
華民国政権の台湾移転に伴い中国オリ  
ンピック委員会も移転し、最初はこちらが  
正統性を維持していました。ところが登  
録住所が南京のままだったこともあり、  
一九五二年のヘルシンキ大会には中華人  
民共和国が参加、IOCのミスでした。

その後、北京にも中国オリンピック委  
員会が設立され、IOCは二つの中国オ  
リンピック委員会を承認します。ここか  
ら両国の「一つの中国」の正統性を巡る  
争いが、スポーツの場に持ち込まれるこ  
とになったのです。ボイコット、IOC  
からの脱退、名称変更などに加え、中華  
人民共和国の国連加盟と中華民国の脱退  
と紆余曲折の外交駆け引きが続きます。

結局一九八四年のサラエボ冬季五輪、  
ロサンゼルス五輪から中華民国(台湾)  
は「Chinese Taipei(中華台北)」の名称  
とオリンピック旗で参加、ここに両国の  
参加が実現し現在に至っている訳です。  
名誉教授としては、蔡英文總統の民進  
党政権下の台湾は、今後の中国との関係  
については、当分の間オリンピック方式  
の関係を継続することが望ましい、との  
ご意見でした。

講演後は居酒屋「つるのや」での早慶  
有志懇親会で更なる交流を深めました。  
参加者は、三台会が名誉教授を含め十  
一名、当会は六名(萩原会長、三村幹事  
長、神田幹事、北川原幹事、渡邊幹事、  
それに齋藤)でした。(齋藤晃・記)





# 行政書士稲門会との交流報告

## 行政書士稲門会 新年会に参加して

川村 淳一

本年一月三十一日(日)の夕刻から翌二月一日(月)の一泊二日の日程で行われた、行政書士稲門会主催の新年会に参加しましたので、ご報告いたします。

この新年会は、親睦と交流を深める目的で、毎年一月末に熱海温泉にて泊りがけで開催されていますが、実際はほぼ宴会のみの行事となりました。参加された方の大半は、行政書士をはじめとする五士業の稲門会で構成される「稲士会」の方で、日台稲門会から初めて参加した小生を加えて、以下の九名での会合となりました。

行政書士稲門会：山下政行会長、鈴木和仁副会長、菊池哲副会長、正岡文人事務局長、今村彰啓会員  
 社会保険労務士稲門会：大南弘己会長  
 代行

税理士稲門会：山岸徹副会長

中小企業診断士稲門会：岩田修役員

会場となった「熱海金城館」は、JR熱海駅から車で一分ほどの温泉街にある露天風呂付ホテルで、遠く熱海湾を見渡せる場所にあります。ひと風呂浴びた参加者がそろった午後六時から宴会が始まり、自己紹介、カラオケで盛り上がりしました。その後、主催者の幹事部屋に移動しての二次会は、日付が変わる頃まで続きました。やはり「稲士会」の方々の

専門性から、話題の中心は相続や財産継承の話となりましたが、生々しい内容や身につまされる事柄も多く、さすがにその分野の専門家は違つと感心した次第です。

翌日は、バイキング式の朝食を全員で食べて解散となりました。時間に余裕のある方は、早咲きの熱海桜などを見物に行かれたようですが、小生は当日仕事のある方々と一緒に東海道線普通列車に乗って帰りました。その道の専門家と一緒に宿泊しての宴会もなかなか面白いもので、いくつになっても勉強が大切と改めて思い直しました。

(かわむらじゅんいち 昭和五十五年政治経済学部政治学科卒業)

## 蔡英文新総統就任式も出席したけど ILTT会に参加した

小川 英郎

五月二十日台北 總統府前広場 蔡英文新総統就任式に出席した

けど、四月十五日、ILTT会に参加した。ILTTとは「I Love Taiwan」の略。ネーミングはポップだが、メンバーはディープ。会長の高さんをはじめ、幹事の井上さん、参加メンバー全員が深く台湾を愛している。

日台稲門会からは梶山さんと私・小川が参加した。梶山さんはILTT会には良く参加されており常連。小川は初参加。

今回会場最寄り駅の日暮里駅で待合せ、開始時刻の七時ちょうどに入店。にもかかわらずその時参加者の半数二十名が既に着席され陣取っておられた。常連の梶山さんは大先輩から引つ張りだこで「おい梶山は、ココ座れ」私は高さんと井上幹事嬢にご挨拶も束の間「小川さんも空いてる処すぐ座って」座るや否や「小川さんは稲門会で明石会か？」

(注)明石会は第七代総督明石元二郎顕彰会 で、小川はその事務局も兼務しています。

「明石さんとは……」「蔡焜燦と会った時は……」「許文龍は……」

乾杯の前に「台湾話」が始まる。右から前から左から後ろから遠くから！ILTT会、ディープの前にホットだ！

改めて言います。ILTT会に参加させて頂きました！

今回の会場は日暮里の台湾料理屋「府城」

七時半には定員四〇名が揃い店内レイアウトの関係で、カウンターで呑む人・立つて呑む人、皆熱くディープに台湾を語っている。

ILTT会、二〇一一年一月から開催され年四―五回(最近は一・四・七・十月)ペースで、今回がなんと第二十三回であった。しかも開催場所が、茅場町の台南茶寮から始まり、新宿タンツーマン(台南担仔麵)・御徒町新竹・代々木・銀座・錦糸町梅園・大久保龍門香館・赤坂香花村・渋谷・新宿香城・銀座未来・麻布十番福りん(臨)・新橋香味・御徒町新東洋・銀座巧匠・銀座金魚・錦糸町・汐留ター

ミー・新宿叙楽苑・浜松町・水道橋台北・新宿霞舫と毎回新会場！(以前開催した処では開催しない)の設定だ！幹事の井上山美さんに脱帽！

私は鈴木英夫様、高木廣幸様、大谷光弘様(稲門会員)と同席させて頂いた。あつと云う間の二時間であった。お開きの際、鈴木さん「小川さんも台湾愛してるね！」

ILTT会メンバー承認の証としてこの本をあげるよ！と頂いたのが、蔡焜燦さんが書いた「台湾人と日本精神」(サブタイトル「日本人よ胸を張りなさい」)

鈴木様、ありがとうございます！ILTT会のメンバー全員の方、ありがとうございました。最後に、「日台稲門会」上胸を張りなさい！笑





# 岩永ゼミの八年を振り返って

名誉会長 岩永 康久



ILT 会代表・高寛氏のご挨拶

五月二十八日(土)台湾淡水ゴルフ場にて開催された台湾早慶ゴルフ五〇回記念大会に参加しました。三十五度の灼熱の中、W 三十二名、K 三十三名が参加し正に熱戦。上位十名の総ストローク戦では、惜しくも二打差で母校の敗北。小生は初めてシルバートイでのプレイ。まだまだ若いと思っていますから、嫌だったのですが、メンツよりも母校の勝利の為にと言われ、結果は、九十一で回り W 内で四位、少しは貢献できました。

先立つ五月十九日(木)、日本でも第三回日本早慶ゴルフ戦が開催され、上位

五名の総ストローク戦。四人目まで W が勝っていたのですが、参加メンバー数の差(W 七名、K 十一名)が出て、最後の五人目で逆転負けとなりました(皆様の参戦に期待！)。

余談はさておき、私は、一九六九年に政経学部を卒業し、その後六十三歳まで住友商事に勤務。台湾には二回、合計十二年駐在しました。最初の駐在は米国六年でしたので、社内では欧米派と言われたのですが、その後の経緯が岩永 II 台湾と見られるようになりました。駐在時には台湾日本人会会長、台北市工商会理事長を引き受ける結果となり、台湾政府・経済界との接点が多くなり、日台間の政治・貿易・外交・安全保障を真剣に考えるようになりました。二〇〇二年?に白井前総長が訪台された際夕食に同席し、いろいろな話に及びました。食事の終わりに頃、母校で年一回の講義を要請されたのが早稲田での講義の始まりです。その後、住友商事を退職したら早稲田で毎週一回の講義を開いてほしいとの依頼があり、二〇〇八年より今年一月まで続ける結果となりました。

講義内容は自由に決めて OK との事でしたから、「ビジネス現場から見た日台中米関係」なる講座名で、現在の政治・経済・外交・安全保障の動きも織り交ぜながら、討論に力点を置き、講義を行って来ました。講義終了後は、四、五日かけて台湾研修に連れて行き、学生に自らの目で確かめ経験させるようにしました。

李登輝元総統には過去七回、毎年三時間程割いていただき、自らの考え(政

治・人生哲学)を伺い、学生たちと熱のこもった質疑応答をいただきました。今年に残念ながら直前の寒波・長雨で体調を崩され前日にキャンセルとなり、お体を心配しました。気候も良くなり五月の蔡英文總統就任式には最前列で参加された由、安堵しています。故 辜濂松・中国信託商業銀行会長(長年にわたって台湾財界のトップ II 日本という経団連会長)、頼浩敏・現 司法院長、江丙坤・現 三三三会会長、歴代亜東関係協会会長など、大勢の VIP の方々にも面談、熱のこもった話をいただきました。

若者同士の交流も図るべく、台湾大学にて学生同士の討論会を持ち、其のあと学生同士で夜市に出かける機会を作り、二二八記念館訪問では蕭錦文氏(叔父様が二二八事件の犠牲に、ドキュメント映画台湾人生にも出演)に自らの経験談として説明をいただきました。加えて日台のビジネス関係の深さを理解させるために、台湾企業(統一、中鋼、科学園區企業)、日本の進出企業(ソニー、みずほ銀行、商社)などを訪問しました。

研修旅行も終え別れ際には、毎年、学生より寄せ書きを送られ、小生の講義を取って良かったとの思いが綴られており涙する思いでした。この三月で早稲田を正式に退任しましたが、社会に巣立った者も含め六〇人ほどが集まり、送る会を開いてくれ、早稲田での教鞭をとれたことを幸せに感じました。そして彼らが未だに台湾問題に注意を払い、台湾の良き理解者になってくれたことをたのしく感じている次第です。

## 日本語教育と進学指導の JET

- 大学院進学コース ●大学進学コース
- 日本語コース ●短期コース

### 学校法人 JET 日本語学校

名誉理事長 金 美齡 (昭和 46 年文研博士単位終了 元早大講師)

理事長 越野 充博 (昭和 57 年商学部卒)

校長 井上 靖夫 (昭和 60 年一文卒 早大大学院講師)

東京都北区滝野川 7-8-9 TEL.03-3916-2101

Email: [info@jet.ac.jp](mailto:info@jet.ac.jp) Homepage: <http://jet.ac.jp/>





# バシー海峡戦没者

## 慰霊祭に参加して

幹事 川村 淳一

台湾の南、フィリピンとの間にあるバシー海峡をご存知でしょうか。戦時中は魔の海と呼ばれ、十万人とも二十万人以上ともいわれる方々が米軍の潜水艦による犠牲となりました。戦後七十年の節目となった昨年八月、これらの戦没者を弔う公的な慰霊祭が台湾で始めて開催され、一九四四年九月に高雄沖で叔父を亡くした遺族の一人として、私も参加してきました。当日の参加者は二百名を超えた様子で、日本・台湾からのマスコミ取材グループもNHKをはじめ多数にのぼり、新聞・テレビでも報道されました。

慰霊祭は、早稲田大学文学部出身の故中嶋秀次氏が、台湾最南端の町である屏東縣恆春鎮の猫鼻岬近くに私財を投じて建立された「潮音寺」で行われました。中嶋氏は、戦中に乗っていた輸送船が潜水艦攻撃を受けて沈められた後、十二日間の漂流を経て奇跡的に生還、その後半生を戦没者の慰霊に捧げられた方です。寺は、眺めが素晴らしい海峡を一望できる高台にあり、作家・門田隆将氏の「慟哭の海峡」には、一連の経緯が詳しく描写されています。参考までに、慰霊祭の主な日程を記しておきます。

・八月一日(土)夜  
高雄国賓大飯店での参加者懇親会

### (行事説明、自己紹介)

・八月二日(日) 慰霊祭(潮音寺)  
八:00頃 貸切バス等で高雄出発

潮音寺へ移動

十一:00 慰霊祭発起人代表 小川智男氏(故中嶋氏の部下)の挨拶

公益財団法人日本交流協会代表による弔辞

佐賀県禅林寺 吉田住職(戦没者遺族)の読経

西村直記氏の鎮魂曲演奏、参列者による焼香、記念撮影

十二:45 巴シー海峡沿い海岸にて参列者による献花、読経、合掌等

近隣の海鮮レストランで昼食、高雄市へ移動

十八:30 高雄国賓大飯店で「バシー海峡戦没者を偲ぶ夕べ」の開催

慰霊祭実行委員長 渡邊崇之氏の挨拶

基調講演 門田隆将氏「慟哭の海峡」と戦没者の無念と未来」

潮音寺管理委員会からの挨拶

### ・八月三日(月)

「バシー海峡戦没者関連施設ツアー(高雄市及びその周辺)」

九:30 日本海軍の軍艦 哨戒艇を参る「紅毛港保安堂」参拝

十一:00 三船太郎將軍(駆逐艦艦長)を参る「慈雲乾坤宮聖聖堂」参拝、旧日本軍の火葬炉跡を見学

十二:00 東港華僑市場を見学、張家食堂にて昼食

十五:00 樋口勝見兵曹長(レイテ沖で戦死を参る「龍安寺先鋒祠」参拝

十六:00 田中綱常將軍(海軍少将として台湾赴任)を参る「東龍宮」参拝

十七:00 高雄国賓大飯店にて解散、自由行動

台湾の最も暑い時期に、最も暑い場所

で、しかも喪服を着用しての慰霊の行事となりましたが、印象に残ったことがいくつもあります。まず、中台防衛大臣のメッセージと日本交流協会代表による弔辞が披露され、バシー海峡とその周辺の戦没者が公式に認知されたことです。また、作家 門田隆将氏が講演の中で「我々は死者を忘れることにより『死者を二度死なせてはならない』との言葉には感銘しました。さらに、バシー海峡の海岸で、

高知県の新極真会空手道場師範の三好一男氏による鎮魂の空手演舞の際、期せずして参列者から「海行かば」の歌声が流れたことも感動的でした。七十年を経て世代が変わっても、台湾の方々が「潮音寺」を守ってくれていること、美しく平和なバシー海峡で台湾の若者がレジャーを楽しんでいること、この一連の行事が日台の民間人の手で取り仕切られたこと等も、うれしい思い出となりました。

皆様も台湾の最南端リゾート、「墾丁国家公園」等を訪問する機会がありましたら、ぜひバシー海峡を見て「潮音寺」へも足を伸ばしてみてください。(かわむらじゅんいち 昭和五五年政治経済学部政治学科卒業)

日本と台湾の懸け橋を目指す

## 石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘 (昭和34年商研卒)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

日本李登輝友の会 副会長

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

〃

神奈川県支部長

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

高座日台交流の会 会長

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>





事務局より  
日本早稲田大学台湾校友会  
台北稲門会 新役員人事です

この度、日本早稲田大学台湾校友会、および台北稲門会の役員人事に異動があった旨連絡がありましたので報告します。

■日本早稲田大学台湾校友会

・理監事就退任お知らせ

この度任期満了に伴い、左記のとおり二〇一六年一月に役員が就退任いたしました。

(前任)

会長 陳光敏

常務理事 方仁惠、劉清標、鄭文哲、蘇銘峯

理事 王英夫、李哲朗、林滄智、林本章、林玲華、涂世俊、陳石明、陳彥勳、許宗熙、張慧莉、黃一桂、蔡啟清

候補理事 吳昕昌

監事 駱慧娟、施奕宏、陳錫湖、蔡榮郎、鄭又璋

候補監事 陳英凱

(新任)

会長 林滄智

常務理事 城仲模、許介立、陳石明、王英夫、鄭文哲、黃一桂、吳昕陽、蔡啟清、鄭又璋、涂世俊、張慧莉、林玲華、林滄堂、陳景雲、吳文弘、董俊毅

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

候補監事 陳英凱

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

候補監事 陳英凱

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

候補監事 陳英凱

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

候補監事 陳英凱

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

候補監事 陳英凱

候補理事 陳彥勳、楊辰文、吳聖如

監事 蘇銘峯、駱慧娟、施奕宏、楊依倫、謝孟吉

候補監事 余宗益

台北稲門会

早稲田大学台湾校友会

会長 林滄智

總幹事 鄭文哲

■台北稲門会

二月一日(月)総会を開催しました。

会長選出と新会長の幹事任命を行い、

弊会の新幹部・幹事体制は次の通り決定

いたしました。

台北稲門会幹部幹事

会長 樺清裕

副会長 長田光生(運動担当)

幹事長 早川友久(懇親担当)

懇親幹事 石川淳、鶴羽大志、向井ゆう子

運動幹事 中野順哉、菰原克典

新体制もスタートしましたが、本年も

よろしく願います。

会員便り

## 新留学時代―先ず日台から

藤本篤志

初めまして。私は留学生誘致の仕事をしている、藤本篤志と申します。今年度より日台稲門会会友とならせていただきました。さらに会友として会報に便りを書く機会をいただきましたので、私の専門である留学生誘致の観点から日台交流の今後について考えてみたいと思います。

台湾の学生は留学への関心が高く、海外へ留学している人は 6 万人ほどいます。二〇一二年のデータでは、台湾から海外に留学している学生の数は 57,859 人。そのうちアメリカには 24,818 人(約四十二%)の学生がおり、オーストラリアには 12,424 人(約二十%)、そして日本には約十一%の 6,591 人となっています\*。アメリカ、オーストラリアという二つの英語圏の国に負けてしまうのは少し残念な気がしますね。外国の学生が日本に留学しようとするとき、母国で受けられる日本語教育、文化・地理的近似性、在留資格(いわゆるビザ)取得の難易度等を考えれば、韓国と台湾の学生が最も日本に留学しやすいと言えます。その台湾においてさえ、アメリカ・オーストラリアにこれほどの差を付けられてしまうのは、日本の大学にブランド力と工夫が足りないのだなと思ってしまう。

そのブランド力を高めようという目的でしょうか。文部科学省は二〇〇八年に

「留学生 30 万人計画」をまとめました。さらに Global 30 プログラムにより、採択された十三大学において、英語のみによるコースの拡大など、国際化を推進していくとしています。もちろん早稲田はその十三大学の一つです。この英語のみによる学位取得コースを採用している大学は増えているようですが、勿論全ての大学が同じことをするわけではありませんが、その必要もないでしょう。大学卒業後の人材活用を考えるならば、やはり留学生にも日本語を習得してもらう必要があります。その日本語習得人材、そして卒業後日本で活躍してくれる人材開発を考えるならば、やはり台湾に力を入れるべきだと思います。留学生 30 万人が成功し、そのうちの五%、1 万 5 千人が台湾人であれば、と私一人で妄想していたりします。

台湾人学生の間では一般的ではないのですが、日本語学校を予備校として利用する方法を今後推進したいと私は考えています。日本の大学の直接受験の機会が乏しく、ビザ取得も難しい中国入学生の間では一般的な方法で、先ず日本語学校に留学し、その後日本国内で大学を受験するというやり方です。勿論日本の大学に直接受験して留学するのが理想的なのですが、日本語能力が足りない等の理由でそのチャンスを逃してしまう学生も少なくありません。そのような学生たちが東京の日本語学校で学び、志望校に再チャレンジできる環境を整えたいと考えています。日本の浪人生が高田馬場の予備校で浪人生活を送るのと同じ環境です。

近い将来、日台中韓の学生たちが自由にお互いの国を往来し、自分の学びたいところを好きな場所で勉強できる時代になるでしょう。その火種は日台留学生戦略にあります。

\* 教育部国際及兩岸教育司「二〇一二年主要国への台湾留学生数」

会員便り

## 日台稲門会入会に当たって

岡部 滋



70 年振りの興安 (ウランホト) にて

昨年十一月に日台稲門会に娘(木藤奈保子)と二人で入会しました岡部 滋です。私は戦前、父の仕事の関係で満洲国の首都新京(現在は長春)で生まれ、内モンゴルの興安(現在はウランホト)で終戦を迎え、一九四六年八月に日本に家族と共に引揚げて来ました。そのような縁で、一九六五年に早稲田大学第一法学部を卒業し、海外特に低開発国の経済

発展に貢献したいという思いで、東洋エンジニアリング(株)という海外で化学プラント等を建設するエンジニアリング会社に入社しました。会社では、特に経理畑を歩き、契約ネゴ等で多数の東アジア、東南アジア、中近東、南米、欧州等の諸国に出張し、それらの国々にいくらかでも貢献出来たのではないかと、今では思っています。

二〇〇四年六月に東洋エンジニアリング(株)を退任し、その後は現役中に考えていた医療、教育、中国等に係わる仕事をしております。国際善隣協会(前身は一九四二年設立の満洲交友会)の常務理事として、東アジア諸国との友好を深めるため、中国、モンゴル諸国との国際交流事業を行っており、毎年お互いに行き来しております。

これまでは台湾とは、あまり交流はなかったのですが、それでも台湾には三度訪れました。私が中国大陸から、引揚げ後、最初に訪れたのは台湾でした。大学卒業後の三月、1 ドル 1360 円、固定相場制の時代でした。台湾の人々の優しさが印象に残り、今でも私にとってモンゴルと同様台湾は大の親日国家であると思っております。

この度、日台稲門会に入り、台湾を勉強し、台湾との友好を深めたいと思っております。更に、中国の動静に大きな影響を受ける台湾は、日本の立場と似ている面が大きく、その意味でも中国リスクに揺れる台湾をもっと勉強したいと思っております。

よろしくお願いします。



会員便り

## 台北の懐かしいフラミンゴ

井上雄介

「紅鶴」――。台北の地下鉄、民権西路駅近くに、中国語で「フラミンゴ」という名をつけた定食店がある。丸刈りのずんぐりした六〇代のおやじと、痩せた五〇代のおかみの二人が切り盛りしている。

豚のばら肉のカツレツを、山盛りの飯の上に乘せた定食が看板メニュー。昼時は、六畳ほどの店内はすくすくいっぱいになる。午後八時ぐらいの店を開けていて、独身者には重宝だ。

職場近くのこの店に何度か足を運ぶうち、おやじが土曜日の夜、店内でやる酒盛りに呼ばれるようになった。

卓にはおやじが腕を振るった肉や魚の豪勢な料理、酒はスコッチ・ウイスキー。呼ばれるのはおやじのお気に入りの常連客ばかり。外銀の職員もいれば、腕に刺青のおやじの舎弟もいる。他愛のない話をしながら、夜半まで延々と飲む。

おやじは元歯科医。その後、電子部品を扱う貿易会社のオーナーに転じ、一時は成功した。当時は韓国や東南アジアによく出張したそうで、ダブルのスーツ姿の往時の写真をしばしば見せてくれた。

「酒は涙がため息か」……。おやじが酔うと口にするのが、昭和六年の古賀政男の名曲。子どものころ、元日本海軍の軍医だった父親が歌うのを、膝の上で聞いたそうだ。当人は日本語が分からず歌

詞の意味を知らない。「失恋の歌だよ」と教えると、納得がいかないようす。謹厳実直で怖かった父親が、恋の歌など歌うはずがないそうだ。

おやじを囲む客は、出身地も職業もさまざま。思い思いに話を交わすが、政治の話題は避け、他人のことは詮索しない。中座や遅刻は自由だし、恋人や友だち帯同も歓迎だ。おやかさが心地良い。色んなエスニックが寄り合って暮らす、台湾らしい酒席に思えた。

台北暮らしは一昨年、わずか二年で終わったが、その後も台北に寄るたび、「紅鶴」の酒盛りに顔を出している。おやじは心臓に持病がある。健康を祈るばかりだ。

## 台湾巨匠傑作選 2016

その一  
in Taiwan cinema

四月三十日から六月十日にかけ、新宿 K's cinema で「台湾巨匠傑作選 2016」という特集がありました。毎日四本ずつ日替わりで二十三本を上映するもので、珍しい作品も多く含まれており、連日盛況のようでした。監督は侯孝賢、楊德昌、蔡明亮が中心で、その他、李安、魏德聖、馬志翔、など。そのうち六本を、寸暇を裂いて？鑑賞してきましたので、感想を披露したいと思います。

『珈琲時光』(監督 侯孝賢 二〇〇四年) 松竹が小津安二郎生誕百年記念として侯孝賢に依頼して製作した作品、なので日本映画です。スタッフはほぼ台湾サイドですが、舞台は東京で言語は日本語、俳優もオール日本人です。

女性フリーライター陽子(一青窈)と古本屋主人の肇(浅野忠信)とのやり取りを軸に、様々なエピソードが淡々と綴られてゆきます。テーマは、戦前活躍した台湾出身の音楽家・江文也と、モリス・センチダックの絵本「まどの中のそのまたまど」(Outside Over There)でしょうか。

江文也はライター・陽子の取材テーマです。彼は日本に留学し、旧制上田中学校から武蔵工業大学に進学するのですが音楽に目覚め、東京音楽学校では歌手になる傍ら山田耕柊らに作曲を学び、作曲家として名を馳せます。その後中国に渡り北京師範大学の音楽系教授を務めるのですが、戦後国民党の迫害を受け、そのまま中国に残ります。そして文化大革命以後、消息を絶つてしまふのです。こういう元日本人は数多くいますが、何らかのかたちで発掘が進めば、と思います。未亡人の乃ぶ夫人への陽子のインタヴュー・シーンがあり、育ちの良い日本語が印象に残ります。

センチダックの絵本は、所謂子供のすり替え(チェンジリング)が主題で、陽子の妊娠が関係しているのかもしれませんが(クリント・イーストウッド監督のアンジェリーナ・ジョリー主演「チェンジリング」は恐ろしい作品でした。)

御茶ノ水橋の上から見るJR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線の電車が交差するシーンが、幾度となく登場します。そう、侯孝賢監督は鉄道マニアなのです。この使い古された光景が、改めて新鮮に映るのは、監督の感性なのでしょう。あと、音鉄でもあり、肇に山手線の各駅の発車メロディを録音させます。

高崎に住む陽子の実父(小林稔侍)、義母(余貴美子)もいい味を出します。陽子の妊娠を妻から告げられ、お父さんからちゃんと言ってよ、といわれても、重い沈黙を経て、結局なにも言えません。小津映画との共通点は、畳の上で家族が食事をする、父のために陽子が大家さんにお酒を借りにゆく、というシーンでしょうか。「いつもお借りしてるの?」「うん」「いやだ、お母さん、恥ずかしい」という会話には笑えました。あと、「肉じゃが」も主人公のようによく登場します。

脚本の朱天文はこういう機微をどう習得したのでしょうか。

※江文也の作品は以前「江文也く日本時代のピアノ作品集」(演奏:ジュイ・ン・ソン)がキングから出たが現在廃盤、インターネットオークションにあるかも知れません。

『黒夜の刺客』 刺客 聶隱娘 「The Assassin」(監督 侯孝賢 二〇〇四年) 中国映画の代表的なジャンルである「武侠映画」の一篇。「武侠映画」といえば台湾駐在の「新龍門客棧」(監督 李恵民)なんてのを観ました。十八

ページに続く。

事務局より

## 関東台湾稲門会創立秘録

日台稲門会は一九九六(平成八)年十一月に関東台湾稲門会として発会、翌一九九七年一月より発足、七月五日(土)に創立総会を開催しました。今回第二十回総会を迎えるにあたり、創設された先人の徳を偲び、初代会長・寺田勉氏の挨拶を会報創刊号から再掲いたします。

## 関東台湾稲門会結成の辞

会長 寺田 勉

いさゝか旧聞になりますが、私が「台湾協会」(台湾引揚者親睦会)の総務部部长をしていた、昭和四十九年三月、台湾協会主催の台湾親善旅行団一行七十名と共に、戦後初めて生まれ故郷の台湾を訪れる機会にめぐまれました。

私の訪台の第一の目的は、私が幼少から多感な少年時代を過ごした台中州北斗街を尋ね、もと私の医院に働いていた薬局や女中さんたちに会って、両親が終戦で台湾を引き揚げるとき、大変世話になったことに對して、一言お礼を述べたいと云うこと、台中二中時代の在台級友に一人でも多く会いたいことや、台中の町や台中第二中学校及び学寮の跡を尋ねたいということだった。

私は昭和六年文学を志して早稲田第一高等学院に入学し、毎年夏中休暇には、北斗の両親のもとへ帰省した。昭和十二年大学卒業後、同年映画会社松竹入社そのまま東京に住みついた。他の弟妹も東京や四日市に居たので終戦の時は末妹一人だけであった。

終戦は台湾で骨を埋めるつもりでいた両親にとって大きなショックがあった。なにしろ渡台以来の四十年間に築きあげた医院など一切のものを接収され、それを着のみ着のまま台湾を去らなければならぬ無念さはひとしおであった筈である。

幸い父は医者をしていたので住民たちがいろいろ氣をつかってくれた。とくに三十年間も父の助手として働いてくれた林氏は、どこからか日本刀を借りてきて診療室に泊り込み、ラウコンイ(老公医)に指一本でもふれてみるただではおかまいぞと守ってくれた。

父は終戦の翌日末妹に林氏と共に登記所に行かせ、総督府からはいさげになったかなりの土地をすべて林氏の名義に書き替えた。

また長らく通い世話をしてたアソンが何かと毎日食へ物を運んでくれた。そのアソンは両親たちが引き揚げの際支線の田中駅に集結したが、列車の都合で四、五日待機させられた時アソンは毎日早く食へ物とシンチリンを天秤にかついで遠い道を何時間もかけて、父が体調をくずしていたのでオカユをたいてくれたことを母からきいて頭のさがる思いがした。

しかも突然の出発命令でアソンになんの挨拶も出来ずにきたことが心残りであったと妹からきかされ、その朝せうかく田中駅まで来てくれたのに両親の姿がなくがつかりして帰途についたアソンの心境を思うと本当にすまない思いがした。

私は空港に着くと一行と別れて北斗に直行した。そして私はアソンの家を探ねた。前もって知らせてあったので、高雄の四男の所に行っていたアソンは四男のバイクの後にのつて少し前に降り着いたところであった。

アソンとお互いに手を取り合ったまま胸がつまつて顔を見合わせたまま言葉が出ず、思わず涙して「両親が大変お世話になったね……有難う」と、言うのが精一杯で彼女の手を強く握り締めた。林氏はすでに亡く息子に会って札をのべた。

とにかく、台湾は私の生まれ故郷であり、私を育ててくれた生涯忘れることのない故郷。

平成七年六月台湾にゆかりのある人で「関東台湾稲門会」を結成したいと思ひ立ち、学報にのせ一年がかりで平成八年十一月に発会、今年一月一日より発足、七月五日に創立総会を開催できた。

この会を通じて文学、音楽、演劇、舞踏、絵画、スポーツ、生け花、茶道等、両国間のあらゆる芸能文化の交流をはかり、台湾の人々との親善をより一層深めることによって、多少でも台湾の人々へ報いたいと念願している。

まさに、映画『渥生回家』を彷彿とさせるエピソードです。日台の絆は一方通行ではない、と感じさせられます。また、「この会を通じて文学、音楽、演劇、舞踏、絵画、スポーツ、生け花、茶道等、両国間のあらゆる芸能文化の交流をはかり、台湾の人々との親善をより一層深める」という初代会長の掲げられた理念は、二十年経っても未だ結実せず、些か物足りないものがあります。今後のさらなる努力と実現が必要と考えます。

さて、参考までに創立時の役員を次に紹介します。

## 関東台湾稲門会役員

名誉顧問 鐘 清漢

会長 寺田 勉 (12文英)

副会長 渡邊 光治 (22商)、笠原 雅生 (34商)、加藤 博 (36理工)、蛭田 亨 (36商)

事務局長 渡邊 義典 (38政経)

会計部長 高橋 保夫 (46院商)

会計監査 田村 雅司 (38政経)

幹事 土井 巧 (11商)、久保田 博明 (24法)、井村 晃也 (27法)、尾崎 穰 (30法)、田澤 潔 (32商)、稲井 宏 (35政経)、林田 重剛 (40商)、西宮 定順 (41教)、黄文雄 (44商)

(事務局長 齋藤 晃・採)



# 日本・台湾祭り in 上野

台湾ニュース  
「日本・台湾祭り in 上野」に参加して

八月一日(土)二日(日)の二日間にわたって、上野恩賜公園で台湾新聞主催の「日本・台湾祭り in 上野」が開催されました。このイベントは、二〇一一年に中華民国百年を祝うとともに東日本大震災の義援金を集め福島県に送ることを目的の一つとして催されて以来の開催だそうです。

三村幹事長、齋藤事務局長、神田幹事、北川原幹事、鈴木幹事と私(萩原)の六人で行ってきました。

猛暑真つただ中での開催であり、日中は避けて一日(土)の午後四時集合。それでも暑かった。台湾のイベントですから寒いより良いかも知れませんが・

会場は、上野駅公園口から出でずぐの竹の台広場で四十台ほどのブースでは牛肉麵、腸詰など台湾グルメの販売、台湾物産品の販売などで大変賑わっており、ほとんどのブースには長蛇の列が出来ていました。台湾駐在当時お世話になった会社のブースも出ており懐かしく、当時を思い出しました。会場では中国語も飛び交っており多くの台湾の方々も参加されていたようです。ステージでは台湾アイドルグループのショーなどが行われていたようですが、私たちはあまりの暑さ

にマンゴかき氷だけ食べて直ちにビヤガーデンに向かいました。

日台交流をテーマとしたこのようなイベントは、最近各地でかなり行われています。私たちがまだ知らない台湾を知る良い機会になると思います。(萩原記)

## 台湾ニュース まるごと台湾フェアに参加して

東京都杉並区の区交流協会主催による「まるごと台湾フェア」が九月十三日(日)高円寺のセシオン杉並で開催されました。当会から齋藤事務局長と私(萩原)が会場を訪ねました。会場は日本と台湾との関係を写したなど懐かしい写真が展示され、中庭ではピーナッツなど台湾物産の販売テントや屋台料理が並び多くの人たちで賑わっていました。

田中良・杉並区長、張淑玲・台北駐日経済文化代表處政務部長のテープカット及び挨拶によりオープンしたこのイベントは第三回目ということですが。私は杉並区に住んでおり、杉並区と台湾の交流がますます盛んになっていることに大変嬉しく思いました。

午前には、当会でも講演をしていたこともある台湾に関する数々の著作で知られる片倉佳史氏が「古写真でたどる日本時代の台湾」というテーマでのお話があり、会場は席が足りなくなるほどの盛況でした。

午後には、台湾映画「KANO」(チケットは完売で私は観ませんでした)の上映会もありました。杉並区と台湾では中学校の野球交流も行っており、その代表メンバーが上映前に登壇して十二月に台湾で開催される親善大会での活躍を激励されたそうです。(萩原記)

## 台湾巨匠傑作選 2016

in 21st cinema

### その二

#### 十五ページから

他には「グリーン・デスティニー」(監督 李安)や「HERO 英雄」(監督 張芸謀)も有名な武俠映画ですね。

時代は八世紀後半の唐。十三年前に誘拐され刺客としての修行を積んだ聶隱娘(林立慧)が、かつての許婚者であり、今は魏博の節度使である田季安(張震)の暗殺という命令を帯びて両親の元へ帰ってくる。妻夫木聡が帰れなくなった遺唐使役で「愛敬。画像の美しい作品(撮影 李屏賓)。カンヌ国際映画祭監督賞」

『恐怖分子』(監督 楊德昌 一九八六年)

一言でいうと「不条理」の世界です。三組の男女が一本の電話をきっかけに、一挙に不安定な状況に追い込まれてゆく。何故そうなったかの説明が一切なく、ひたすら不安を煽ります。カフカの「審判」に似た、極めて欧州的な作品。

『ヤンヤン 夏の想い出』(監督 楊德昌 二〇〇〇年)

一応八歳のヤンヤンが主人公なのですが、脳卒中で倒れた祖母を通して低音とし、昔の恋人と疑似不倫に走る父NJ(吳念真)、看病疲れからか宗教に逃避する母、恋に揺れる姉と、崩壊一步手前の家族の姿を描いています。NJの会社の提携相手をするイッセー尾形が秀逸。楊監督の遺作となりました。

『ウェディング・バンケット』(監督 李安 一九九三年)

LGBTの青年・偉同が両親を欺き通すために、画家の女性・威威と偽装結婚することで引き起こされる悲喜劇。舞台はマンハッタンで、アメリカで暮らす華僑の風俗がよく描かれています。父親役の郎雄を主人公とした「父親三部作」の第二作目ですが、この作品では国民党の退役軍人を演じています。威威を演じた金素梅は、その後立法委員になり来日して靖国神社で大暴れした、あの方です。

『恋人たちの食卓』(監督 李安 一九九五年)

「父親三部作」の第三作目。圓山大飯店のチーフシェフだった老朱(郎雄)は妻亡き後三人の娘を手塩にかけて育てたが、成長した今、父も含めてそれぞれの人生を歩むことになる、というのが粗筋。見どころは圓山の厨房や郎雄の料理の数々、中華包丁も随分種類があるんですね。中華料理のお好きな方は必見です。それでは紙数も附きましたので。

## 書籍紹介

幹事 梶山憲一

台湾で日本のほそまを生きて 羅福全  
(榮町少年走天下) 天下文化出版社

## 羅福全という人

本書は、二〇〇〇年からの四年まで中華民国・台湾の駐日代表を務めた羅福全氏の回想録である。

羅氏といえは、ご存知のように早稲田の先輩だ。一九六三年に大学院で経済学の修士号を取得され、本書中でも「母校である早稲田大学」との表現がある。

この先輩の半生は、英雄伝のような波乱はないが、スケールは大きい。台湾で出版された原書『榮町少年走天下』のカバーにある意句が振るっている。

「台湾で生まれたその人は、千里を独り行き、国境を股にかけて世を渡っていく。羅福全はカバンを提げて世界を往くビジネスマンではなく、政府が派遣した外交官でもない。彼は彼自身なのだ」(拙訳)(原文「一個出身台灣的人，千里獨行，在國際級的世界闖蕩，羅福全不是提皮箱到世界做生意的人，也不是政府派出的外交官，他就是他自己」)

日本統治時代の台湾、その嘉義市榮町で生まれた羅氏は、幼稚園から小学校四年までを日本で過ごし、終戦で台湾へと帰り、台大を卒業して、早稲田で修士号、次いで米国へ留学して博士号を取り、や

がて国連の専門職員となって、世界を渡り歩くようになったのだ。

それだけではない。早稲田入学で東京に出てきて以来、三十一年間も故郷・台湾へは帰れなかったのだ。生母や養母が亡くなっても帰れない。帰れば、その故郷を統治する中華民国政府に犯罪者として拘束されるのだ。しかも、羅氏が専門職員となったのは、中華民国が脱退した国際連合だった。

## 台湾とアジアが見える

羅氏が中華民国政府から犯罪者であると言指しされたのは、台湾独立運動に身を投じたからだだった。



陳柔縉・編著 小金丸貴志・訳 渡辺利夫・序 藤原書店・3888円(税込)

米国において、学生として経済学を学びながら、羅氏は、エドウィン・O・ライシャワー教授に台湾人の窮状を訴えたり、中国派の集会に独立派として一人で参加するといった活動を次々に展開していく。これらは、淡々とした語り口で語られるだけに、羅氏の内に秘めた真摯な思いが伝わってくる。第二、第二次大戦後の台湾人と中華民国のあり方が明瞭な構図で浮かんでくる。

回想録を読む意義の一つは、立場の明確な個人の視点で時代を見つめることで、よりリアリティーをもって歴史を知ることができると点にある。

この羅氏の回想録は、戦後台湾史および日台関係史を見つめるには最良の書籍の一つではないかと私は思う。

そればかりではない。

羅氏は名古屋にある国連地域開発センター(UNCRD)の国際比較主任となってからは、フィリピン、インドネシア、インド、パキスタン、はたまた中国などを飛び回り、それらの地域開発に尽力する。こうした顧問や研究者としての活動は地道なものだが、その多岐さにおいて、まるでアジア開発のパノラマを見ているかのようなスリルを私は味わったものだった。

そして一九九〇年、羅氏は、東京・青山に本部がある国連大学の高等学術審議官となる。

## 精神を感じる回想録

一九九三年のことだったと思う。津田塾大学の教室で行われた台湾に関する研

究討論会の席に私はいた。当時津田塾の教授だった許世楷氏らが開いたものだ。

討論が進むなか、私の座った席の真後ろにいた人が発言した。なめらかな日本語で、知識と知性の高さがうかがえる意見だった。振り向くと、体格のよい柔らかな顔をした中年男性がいた。休憩時間、私はその男性に、台湾についていくつか質問した。理路整然とした、しかしわが子を教えるような優しく丁寧な答えが返ってきた。

私は礼を言いつて名刺を差し出した。そしていただいた名刺には国連大学とその役職名とともに、「羅福全」と氏名があった。

羅氏の真骨頂は、理性的な態度と、人の心をとろけさせるかのような柔らかな物腰が同居している点にあると思う。真に強靱な志の高い精神だけがもてる優しさではなからうか。

本書も、読んでいるうちにそんな羅氏の精神がひしと感ぜられてくる。

\* \* \*

なお本書は聞き書きによるもので、原著の文章をまとめたのは陳柔縉氏。日本統治時代の台湾を題材にした数々の著作がある女性コラムニストだ。日本でもその一冊が翻訳された『日本統治時代の台湾』(PHP研究所)がある。新聞記者出身で、インタビューや聞き書きも多く手掛けており、ベストセラーになった張超英氏の回想録『宮前町九十番地』(邦訳)『国際広報官張超英』(まどか出版)も彼女の手になるもの。



## 台湾の新駐日代表

「絆をより強く」

台湾の蔡英文政権で新たに任命された謝長廷・駐日代表(大使)が九日、着任した。羽田空港に到着後、記者団に「台湾と日本は昔からいい関係を持っている。このような良い関係を基礎にして、日台の絆をもっと強く深くさせていきたい」と話した。

謝氏は一日、熊本地震の被災地を訪れる予定だという。

※六月九日付朝日新聞より抜粋

## 新会員・会友紹介

前回総会以降入会された会員・会友の皆さんを紹介します。台湾を「よなな」愛するかたがたです。

## 一新 会 員

安藤 俊明 さん

昭和四十四年理工学部卒業

井上 雄介 さん

平成元年法学部卒業

大谷 光弘 さん

昭和四十六年第一商学部卒業

岡部 滋 さん

昭和四十年第一法学部卒業

何 時宜 さん

平成二十七年国際教養学部卒業

夏元 梨帆 さん

学生会員

平山 浩一 さん

昭和五十六年政治経済学部卒業

【新 会 友】

藤本 篤志 さん

## 年会費のお支払いについて

本年度会費の納入を、よろしくお願いいたします。なお、会計担当幹事の交替に伴い、銀行振込口座が変更しましたのでご注意ください。

## ●銀行振り込みの場合

みずほ銀行 六本木支店(店番053)

口座番号 普通預金 4448937

口座名義 ニッタイトウモンカイ

## ●郵便局振り込みの場合

加入者名: 日台稲門会

口座番号: 00130869805

\*銀行または郵便局の払込金受領書をもって領収書に代えさせていただきます。当会発行の領収書がご入用の場合は、振込取扱票の通信欄にその旨、記入ください。

## 台湾関係者 叙勲の紹介

## 秋の叙勲、台湾から3人受章

日本政府による11月3日付発表の2015年秋の叙勲受章者の外国人叙勲のうち、台湾からは次の4名の方がたが受章されました。

- 彭 榮次さん(81) 現 台日産業技術合作促進会顧問 旭日重光章
- 林 丕雄さん(84) 現 淡江大学名誉教授 旭日中綬章
- 張 文芳さん(85) 現 友愛グループ代表 旭日双光章
- 蘇 慈琴さん(63) 元 公益財団法人交流協会高雄事務所職員 瑞宝双光章

## 春の叙勲、台湾から1人受章(死亡叙勲)

2016年春の外国人叙勲については、台湾からは宋文薫さんの受章が決定していましたが、4月29日の発表直前に急逝され、5月10日、死亡叙勲が決定いたしました。

○宋 文薫さん(1924-2016年) 台湾大学名誉教授 旭日中綬章



## § 編集後記 §

鄭成功ことと藤内が活躍する近松門左衛門作の人形浄瑠璃「国性爺合戦」は、十七カ月で二十万余の観客を動員し、義太夫が没して存続の危機にあった竹本座を甦らせたという。明を滅ぼした満州女真族の清王朝(浄瑠璃では北狄である韃靼と置き換えている)に対する当時の日本人の恐怖心と、中国文化の正統である明に対する思い入れが大当たりの要因ではないかと、江藤淳はいう。これが、日清戦争以後、孫文や蒋介石の国民党結党に尽力した宮崎滔天ら明治革命家の理念に連なるのではないかと想像する。

この中国文化の正統性は現在、故宮博物院の文物に託されている。その意味で馮明珠前博物院長が「文物の所有権はすべて『中華民国』に帰属する」と立法院で答弁したのは正しい。また、蔡英文新総統が中華民国総統という資格で台湾を統治する以上、中華民国体制の保持は合理的ではないかと思う。さて台湾アイデンティティーである。

この二年間で民主進歩党に圧倒的な支持を与えた台湾の人々。中国からの不当な干渉は充分予想できただろうが、敢えて新政権を選出した。この覚悟と判断には大いに学ばなければならぬ。我々も今回の参議院選では理性的な判断を下さないと、台湾の人々に嘲われるし、同時に信頼をも失うだろう。台湾は我が国近隣で唯一、価値観を共有する、排他的でない国なのだから。

(齋藤)

# 日台稲門会会則

## 第一条(名称)

本会は日台稲門会と称する。

## 第二条(目的)

本会は会員相互の親睦をはかり、早稲田大学の発展に協力し、あわせて台湾との交流を深めることを目的とする。

## 第三条(会員および会友資格)

会員は日本に居住する早稲田大学の校友または学生で、多少でも台湾にゆかりのあるものとする。

2. 会友は本会活動に賛同する者で、会員の推挙により幹事会で決定する。

## 第四条(役員の選出)

本会は次の役員を置く。

会長一名、副会長若干名、幹事長一名、副幹事長一名、事務局長一名、幹事若干名、会計一名。

2. 会長は幹事会の推薦を経て総会で選出する。

3. 副会長、幹事長、副幹事長、事務局長、幹事、会計は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

## 第五条(役員の任期)

役員の任期は次のようにする。

(1) 会長の任期は定期総会終了の時から二年後の定期総会終了の時までとする。ただし、再任を妨げない。

(2) 会長以外の役員の任期も会長の任期に準じる。

## 第六条(役員の職務)

役員は次の会務を執行する。

(1) 本会の諸会合に関すること

(2) 会員名簿の整理並びに管理に関すること

(3) その他の本会の目的達成に必要な行事の企画

第七条(会長・副会長・幹事長・副幹事長、事務局長の職務)

会長・副会長は本会を代表し、本会の運営を統括する。

2. 幹事長は会長・副会長を補佐し、会長・副会長に事故ある時はこれに代わる。

3. 副幹事長は幹事長を補佐し、当会の円滑なる運営を図る。

4. 事務局長は会の事務を執行する。

## 第八条(監査役)

本会は監査役を置く。

2. 監査役は会長の委嘱を経て総会で選出する。

3. 監査役は会計監査を執行する。

4. 監査役の任期は定期総会時から二年後の定期総会終了の時までとする。

5. 任期の満了前に退任した監査役の補欠として選任された監査役の任期は、退任した監査役の任期の満了する時までとする。

## 第九条(幹事会)

幹事会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、事務局長、幹事、会計をもって構成し、必要に応じて会長が召集して本会の運営に必要な事項を協議、決定する。

## 第十条(総会)

本会は幹事会の決定を経て毎年一回、会長の招集により定期総会を開催する。ただし、会長が必要と認めた時は、幹事

会の議を経て臨時総会を開催することができる。定期、臨時総会において会長は議長となり、決議は出席会員の過半数をもって成立する。

## 第十一条(事務局)

本会の事務局は、事務局長宅に置く。

## 第十二条(経費)

本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって支払う。

## 第十三条(年会費)

本会の会費は次のとおりとする。

(1) 年会費は金五、〇〇〇円とする。

(2) 年会費を継続して三年間未納の場合は、本会を退会したものと見做す。

(3) 学生会員および卒業後一年未満の会員は年会費を免除する。また学生会友についてもこれに準ずる。

## 第十四条(会計年度)

本会の会計年度は四月一日より翌年の三月三十一日までとする。

## 第十五条(名誉会長、顧問)

名誉会長、顧問は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

2. 名誉会長、顧問は会の行事に積極的に参加し、幹事会に意見を求められた場合は真摯に対応する。

3. 顧問の任期は委嘱を受けた時から二年間とする。

## 第十六条(会則の改訂)

本会則の改訂を必要とする事項については、直近の総会において事後承認を求めなければならない。

## (付則)

本会則は、平成九年一月一日より施行する

平成十二年四月十五日 一部改訂  
平成十三年四月七日 一部改訂  
平成十五年四月十二日 一部改訂  
平成二十年四月二十六日 一部改訂  
平成二十四年六月九日 一部改訂  
平成二十五年六月一日 一部改訂  
平成二十七年六月二十日 第四条第1項、第3項、第六条第2項、第七条第1項、第八条第4項、第九条、第十一条改訂、第七条第4項、第十五条第2項、第3項 新設  
平成二十八年六月十八日 第十三条改訂

## 校友会情報 第五十一回ホームカミングデー

二〇一六年十月二十三日(日曜日)開催予定。

- ① 〈卒業後五十年目〉一九六七年次  
(昭和四十二年卒業の方)
- ② 〈卒業後四十五年目〉一九七二年次  
(昭和四十七年卒業の方)
- ③ 〈卒業後三十五年目〉一九八二年次  
(昭和五十七年卒業の方)
- ④ 〈卒業後三十五年目〉一九九二年次  
(平成四年卒業の方)
- ⑤ 〈卒業後十五年目〉二〇〇二年次  
(平成十四年卒業の方)
- ⑥ ①～⑤と同期入学で卒業年の異なる方
- ⑦ ①～⑤の年および開催年に推薦校友になった方
- ⑧ 卒業後五十一年目以降の方には案内状はお出ししておりませんが、是非おいでください